

## 高垣昂平 電機メーカー勤務

中央大学

商学部 経営学科科卒

大学生活を振り返ると、4 年間は挑戦の連続であった。生活の中心は常に野球であり、高校時代に県内無敗でありながらコロナ禍により甲子園出場の夢が絶たれた私は、大学で再び全国大会出場を目指すことを決意した。

中央大学準硬式野球部は日本一 13 回を誇る名門であり、部員は全員が強豪校出身のスポーツ推薦選手であった。入学当初は「このチームなら日本一になれる」と信じていたが、大学 3 年生までの間、あと一歩のところで日本一を逃し続けた。特に大学 3 年時の全日本大会ではリーグ戦でベストナインを獲得しながらも、不調のため試合出場すら叶わなかった。この悔しさをバネに新チームでは自ら副主将を志願し、選手と首脳陣が一体となるチームづくりを目指した。その結果、真に一体感のある組織へと成長し、最後の全日本大会では悲願の日本一を達成、決勝戦では先制タイムリーも放つことができた。この夏の経験は、生涯忘れることのできない最高の思い出である。また、関東選抜としても日本一を経験し、学生野球人生の集大成を飾ることができた。

野球に打ち込む一方、経営学科だった私は 3C 分析や SWOT 分析などマーケティング分野を中心に学びを深め、大学 2 年時には成人式で成人代表スピーチを務めるなど、学業・課外活動の両面で常に挑戦を続けた。

就職活動でも妥協せず挑戦を続けた結果、三菱電機株式会社から内定をいただくことができ、現在は野球で培った関係構築力と挑戦心を活かし、日々成長を実感している。

心の底から胸を張って「充実した 4 年間」を過ごしたと言える。この 4 年間で、日本一という目標を達成し、多くの仲間と出会い、かけがえのない経験を積むことができた。今後もこの経験を糧に、一步ずつ着実に努力を重ねていきたい。